

山口市・パンプローナ市姉妹都市締結 45 周年記念

# 山口市民訪問団訪問記

2025 年(令和 7 年)5 月 11 日～21 日



パンプローナ市庁舎前にて

山口市・パンプローナ市姉妹都市締結 45 周年記念事業実行委員会

## 目次

あいさつ	P.1
山口市・パンプローナ市姉妹都市締結 45 周年記念『山口市民訪問団』団長 山口市長	
ヤマグチ公園での意見交換会報告	P.3
山口市民訪問団訪問記	P.5
山口市議会議長寄稿	P.24
関連資料	P.25
山口市・パンプローナ市姉妹都市締結 45 周年記念事業実行委員会 山口市民訪問団員名簿 山口市民訪問団行程 山口市・パンプローナ市姉妹都市締結 45 周年記念式典市長挨拶 山口市・パンプローナ市姉妹都市締結 45 周年記念ナバラ州政府表敬訪問挨拶 他	



フランシスコ・サビエル生誕地 ハビエル城

あいさつ

山口市・パンプローナ市姉妹都市締結 45 周年記念『山口市民訪問団』団長 多々良健司

この度、両市の姉妹都市締結 45 周年を記念して市民訪問団を結成しパンプローナ市を訪問する機会を得た。亡き父が初代会長を務めた『山口ナバラ協会(現「山口スペイン・ナバラ協会」)』のメンバーが中心となり計画を立案、スペイン・パンプローナ市に初めて行くであろう皆様にも参加できる内容に、ツーリストと共に練り上げたものである。

ここに、両市の絆の一部を記載する。

1549 年、聖フランシスコ・ザビエルはイエズス会の宣教師として布教のため鹿児島上陸。

1551 年 3 月、インド総督の使節として大内義隆に布教の許しを得た。1552 年 12 月 9 日、宣教師コスメ・デ・トルレスが山口市の司祭館で賛美歌を歌ってクリスマスを祝った。このことが、イエズス会に報告され、またフロイスが記録に残している。

おおよそ 5 世紀の時を経て 1980 年 2 月、山口市とスペイン・パンプローナ市は姉妹都市締結。1994 年 12 月、両市の協議を経て、姉妹都市締結 15 周年になるのを記念してパンプローナ市内に『山口公園』建設が決定。1995 年 2 月、建設予定地調査に山口市造園協会の技師 2 名を派遣。翌年、同造園協会のメンバー十数名が公園建設の滝石組や植栽の技術指導に入った。1997 年 6 月、『パルケ・デ・ヤマグチ(山口公園)』竣工。山口市から山口市長を始め 40 名の訪問団が開園式に参加。

これを機に 1997 年 7 月『山口ナバラ協会』設立、後に『山口スペイン・ナバラ協会』と改名し今日に至る。今回当協会が中心となって実行委員会が設立され、2025 年 5 月、姉妹都市締結 45 周年、および『山口公園』着工 30 周年の記念に、山口市造園協会の技師 4 名を含む市民訪問団 22 名が海を渡る機会を得る。

山口市の公式訪問団のパンプローナ市訪問日程を考慮し、5 月 11 日から 21 日の 11 日間の長旅となった。以前スペインに駐在した経験のある協会役員の助言も得て、一般のツアーでは組み立てないであろうプランとし、『美食巡り』をコンセプトに地中海沿いの都市バルセロナから、北はカンタブリア海沿いのサンセバスチャンやビルバオに至るまで名所と美食に舌鼓を打つ。

17 日いよいよパンプローナ市入り。早速ホテル近くの『山口公園』を視察。造園協会のメンバーや旅の同行者と共に、28 年ぶりの公園に対面。明後日の造園技師同士のセッションを踏まえ改善ポイントを確認。夕刻、『nihonniponpamplona』団体と相互の情報交換の後、中身の濃い交流を行った。18 日、ハビエル城をはじめとするパンプローナ市内の名所を巡り歴史と文化の深さを味わう。19 日、市庁舎や『山口公園』での式典に参加。詳しくは、参加者の訪問記に委ねる。パンプローナ市の子供から大人まで、山口市に対する関心の高さを体感できた素晴らしい旅となった。



山口市長 伊藤和貴

2025 年は、1980 年 2 月に山口市とスペイン・パンプローナ市が姉妹都市提携を締結してから 45 周年を迎える年であります。

この記念すべき年に、多々良健司団長をはじめとする 22 名の山口市民訪問団の皆様とともにパンプローナ市を訪問できましたことを大変嬉しく思います。また、45 周年の記念事業の実施にあたり御尽力を賜りました関係者の皆様に、心から感謝を申し上げます。

本市とパンプローナ市との交流は、スペイン人宣教師のフランシスコ・サビエルが山口に滞在していた折、大内義隆がサビエルにキリスト教を布教することを許したという史実に由来しており、パンプローナ市がサビエルの生誕地であるスペイン・ナバラ州の州都であることを御縁に始まりました。

パンプローナ市内に姉妹都市締結 15 周年を記念して造園された「ヤマグチ公園」は、日本庭園の趣を特徴としており、開園約 30 年を経て、緑豊かな市民の憩いの場となっております。また、同公園に隣接する「ヤマグチ図書館」は、山口市民からの寄贈等により、スペイン国内でもトップクラスの日本関連の蔵書を有しており、俳句や書道といった日本文化の活動の場となっております。さらに、近年では、パンプローナ市のサン・ファン・デ・ラ・カデナ小学校と山口大学教育学部附属山口小学校とが、「英語を通じた学術連携パートナーシップ協定」を結ばれ、クリスマスカードの交換やお互いの街を紹介するビデオメッセージによる交流が行われております。

また、パンプローナ市との交流は行政のみならず、両市の市民による交流によって支え続けられていることが、この度の市民訪問団の皆様の報告の中からも伺い知ることができます。パンプローナ市民は、温かく我々を迎え入れ、そして出会えたことをとても喜んでくださいました。この訪問記を通じて、国際交流の意義や理解が更に広がりましたらこの上ない喜びでございます。

結びにあたり、この度のパンプローナ市訪問及び市民交流に御協力いただきました山口市民の皆様、そして山口市からの訪問団一同を温かく受け入れてくださったパンプローナ市長をはじめとするパンプローナ市民の皆様に厚くお礼申し上げます。

## ヤマグチ公園での意見交換会報告

### ヤマグチ公園での意見交換会について

【 繋ぐ 】

山口市造園協会

会長 岡本秀一

この度、ヤマグチ公園完成から 35 年を記念して、山口市造園協会へお話をいただき現地の管理者との意見交換及び、実技交流を行ってまいりました。

ヤマグチ公園の建設にあたっては、当時の山口市造園協会の会員企業が大きく関わっており、設計から現場での技術指導にいたるまで、庭師を派遣して協力してきた経緯があります。今ではどの企業も世代交代が進み、そのほとんどで次世代経営者となっており、当時のことは写真などの記録や、先輩方からの武勇伝として口伝えで聞くしかありませんでした。そのような中でこの度、私たち現役世代が先人達の造った公園を維持管理する機会に恵まれたのです。

今回は現地での時間の関係上、ポイントを絞って東屋から滝を眺める視点に重点を置き意見交換いたしました。



完成から 35 年も経過すると当時からはどの木も大きく育ち、公園利用者の憩いの場となるような緑陰を形成しているものの、滝口などの奥まった場所などは光が降込まず、陰湿なイメージとなっているような場所もあります。今回はその部分の改善と、芽吹き時期ならではの低木類の強剪定について話し合い実演してまいりました。



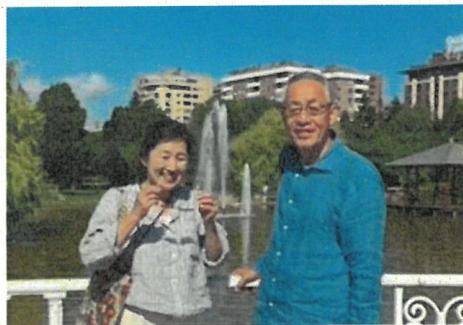
現場での交流は当初もっと少ない人数の作業員を想定しておりましたが、実際に集まった現地の技師の数はなんと 20 人！ものすごく多くの方がこの公園の維持管理に関わってらっしゃることを知り驚きました。実技交流の中では建設当時はこうであったであろうという思いや、自然の中での流れや岩の配置、上流(滝)から下流(池)までの物語りを説明させていただきながら効果的な剪定の実技指導を行いました。

今回の現地での交流体験を経て、我々世代も次世代へ繋ぐ責任が芽生えてきたと感じています。また、パンプローナ市の中にある山口市の象徴として、いつまでも市民に愛される美しいヤマグチ公園であってほしいと願います。

この度は貴重な経験をさせていただきありがとうございました。感謝。

5月17日、ビルバオで昼食を摂ったのち『グリーンスペイン』と呼ばれる緑豊かな山並みを車窓から眺めつつ、パンプローナ市に向かう。バスは、嫺やかな山に囲まれた盆地に降りていった。

パンプローナ市内のホテルに到着。ガイドマップを入手。すぐそばに『PARQUE YAMAGUCHI(山口公園)』があるではないか。この度、亡き父(山口ナバラ協会初代会長)と私が携わった仕事を見るべく、総社市から妹が参加。妹と同室の友と市造園協会のメンバーと足早に公園に向かう。



山口公園で妹と

公園ができるまでの経緯。

- ・1995年1月6日朝 山口市国際交流室よりTEL。姉妹都市15周年を記念して、パンプローナ市より市内に『山口』の名をつけた公園を整備、そこに日本庭園を設置したい。市造園協会に協力依頼をしたい。池(約3,000㎡)を中心に、10,000㎡相当の計画地を確保していると。その後、山口市から山口市造園協会に正式依頼。直後より、私が造園協会から企画設計の依頼を受け着手。2月にパンプローナ市長が来山予定。それまでにプランを作成するように、と。
- ・1995年2月17日～アルフレッド・ハイメ市長来山。市造園協会より プレゼン、プラン承認。4月に市造園協会2名が現調。
- ・1996年5月27日 佐内山口市長に最終プランを説明。池を中心にした日本庭園『池泉回遊式』の形式を基に、維持管理の容易な公園スタイルにアレンジ。6月、私が一人で現地入り。工事打合せ・材料調達調査。その後、工事の進捗を見て市造園協会の先鋭メンバーが現地指導。
- ・1997年6月29日 山口市長を初めとする市民訪問団42名が、パンプローナ・ノイアン空港に降り立つ。翌日、パンプローナ市長を表敬訪問、夕刻より開園式に出席。提灯(400個)飾りつけ・点灯、お茶席の接待、『大内の殿様』披露。

2025年5月19日 パンプローナ市役所表敬訪問、『PARQUE YAMAGUCHI』にて式典後、記者の取材を受ける。感想を聞かれ、「28歳になるわが子を見てる思いだ。先ほど、造園技師により日本風情を醸し出すよう滝・流れ周りを整えてもらった。この技術は、こちらの技師にも伝わってると思う。ここが皆に愛されている空間だと、ひしひしと体感できてうれしい。」

古来日本人は「八百万の神」信仰に代表されるように、自然に対して畏れとあきらめと共に崇敬の念を抱いて、常に対峙し共生しようと努力してきた。我が山口県の誇る民俗学者の宮本常一は「日本人は自然を愛し、自然を大事にしたというけれど、それは日本でも上流階級に属する一部の、自然に対して責任を持たぬ人たちの甘えではなかったかと思う。自然の中に生きた者は自然と格闘しつつ第二次自然を作り上げていった。」と総括し、更に「自然は寂しい、しかし人の手が加わると暖くなる」と言っている。人は樹に語りかけ、石の気持ちを聴こうとし、山や川や海や動物と共に生きてきた。こうした第二自然形成の歴史に象徴される日本人の自然への対し方、衣食住・こころのありようと森林花木とのかかわりは、我々日本人の文化・社会の形成や宗教観・人生観・死生観にも大いなる影響を与えていると考える。

今回のスペイン訪問により、我々は以下の公園・庭園を訪れる事ができた。

- ①「グエル公園(Parc Güell)」:ガウディ設計による広大な公園(@Barcelona)
- ②「CODORNÍU S.A.」:スペイン最大の CAVA 醸造所(@St Sadurni D' Anoya)
- ③「MARQUÉS De RISCAL BODEGAS」:Rioja ワイン最大のワイナリー(@El Ciego)
- ④「BODEGAS OCHOA」; Navarra ワイン最大のワイナリー(@Olite)
- ⑤「サビエル城」; F.Xavier の生誕の地(@Javier)

流石にどの場所も人の手が十分に入って、整えられ清掃がなされており、特に②と③の庭園は歴史的建物との調和が素晴らしく、訪問団員が皆自然と声を上げる美しさであった。素晴らしい製品はこうした環境と常日頃の努力の賜物であろうと感じた。

⑥「Parque YAMAGUCHI」; 今回の目玉でもある@PAMPLONA の山口公園。

写真は公園完成後5年頃の 2002 年 3 月に行った際の様子である。



23 年前の様子

当時植栽は未だ生育途中で、この広大な敷地が将来どうなるのかと期待をした覚えがある。今回 23 年ぶりに訪れて、大きく育った樹木と手入れされた植栽に年月を感じると共に、市民に愛されている様子が伺えて嬉しさと誇りを覚えた一時であった。将来がもっと楽しみである。最後に、西洋式公園、日本庭園、いずれも美しい。そしてここ山口市にも橋の上の片隅ではない「パンプローナ」を冠した市民憩いの公園が欲しい、既存の公園の改称でもいいので、よりよい形で残して欲しいと思うのは私だけであろうか？

～心に残る旅でした～

渡邊優子

私は今回 8 年ぶりにスペインを訪問できてとても素晴らしい経験ができました。山口に住んで 3 年目、井筒屋前の商店街の地面に世界各都市の方向がレイアウトされていて、中に Pamplona が書いてあるのは最初はびっくりしました。過去夫の仕事の関係で欧州に 13 年半住んでいましたが、いつも思い出すのは計 2 回、7 年半過ごしたスペインです。今回の Barcelona, Montserrat, Zaragoza, Pamplona, Xabier 城は行った経験があり、とても懐かしかったです。San Sebastián, Bilbao, Olite や様々なワイナリーは初めての経験で、きれいな建物や庭園、そしてブドウジュースの美味しさも堪能しました。そして訪問団の皆様とは初対面でしたが、皆さまとても優しく、楽しく交流ができました。ありがとうございます。又入江悠太君は前から知っていましたが、無邪気で楽しくあつという間にみんなのアイドルになりましたね。特に主人の特大顔写真配信は大変ウケていました。荒木さんと福田さんのお二人のガイドさんの博識と勉強されている様子にも感動し、改めて訪問地の事がよく分かりありがたかったです。

皆様を 5 月 20 日の早朝にお見送りをし、私共はあのもう一日 Pamplona に滞在して、午前中は五稜郭のような城跡公園をミゲルと歩き、午後はマドリッドから来た友人夫妻と山口公園から市庁舎付近まで歩き、久しぶりの日本食(もどき)を食べました。翌日は Bilbao 空港から Valencia 空港に飛んで、昔住んでいた Benicasim 村や Castellón 市内を巡り、元市長や友人夫妻と Bar で夕食をとったりして、昔を懐かしみました。23 日に Valencia を出発し 24 日の夕方山口の自宅に帰りホッとしました。

今回の旅行は公式行事があり、普通の旅行では経験しえないパンプローナ市庁舎やナバラ州政府庁舎を訪問できました。カステジョン市庁舎もそうですが、昔の建物を大事に現在も使い、中の装飾や部屋も大変豪華で立派でした。



又カデナ小学校の訪問も大切な思い出です。とても可愛い子供たちが出迎えてくれました。一生懸命習字をしている様子も微笑ましく、主人が一筆「寿」と半紙に書いていました。又「幸せなら手をたたこう」を一緒に歌おうと、主人が事前に楽譜・歌詞や動画を送って準備していましたが、当日音源の故障とやらで、アカペラで音頭をとって歌い、逆に盛り上がったのではないかと思います。山口公園も立派な公園に育っており、又団長を始め庭師さんたちから初めて聞く話を興味深く伺う事ができました。

心に残る旅行となりました。本当にありがとうございました。

姉妹都市のパンプローナはどんな所だろう、『やまぐち公園』を造ることに携わった父や兄の足跡をたどってみたい、そんな動機から参加したスペインへの旅は、感動いっぱい！お腹いっぱい！の旅となりました。

パンプローナ市に向かうまでに見た様々な街並みは「わあ！素敵」とため息の連続でした。至る所に 15 世紀前後のロマネスク様式の建物が今も生活の中に溶け込んでいたり、ガウディの建造物が住宅やカフェとして使われていたりしていました。道路に面した並木道には電線がなく大きく育った樹木が木陰を作り、その下で食事をしたり演奏を聞いたり、開放的な空間に人々が集まり憩いの場になっているのはいいなあと思いました。

また、世界遺産の城や教会や公園、歴史あるワイナリーなどを巡りました。素晴らしいガイドさんにも恵まれ、世界遺産の細部にわたる説明や 15 世紀前後の歴史や暮らしや思いを聞くことができ、想像をめぐらしながら見学することができました。石の建造物や彫刻、装飾品やステンドグラス、重厚な木製扉などに圧倒され、お話の世界にいるような心もちになり、歴史ある景色の中に居たこと見ることができたことは有難いことだなと感じました。

いよいよパンプローナ市へ。のどかで穏やかな雰囲気の家が第一印象でした。様々な場で『yamaguchi』という字を見かけ、これまでの交流が息づいているのだなと嬉しくなりました。



石造りのザビエル城を見て、山口の火災前のサビエル記念聖堂を思い起こしました。ここに来て、大内氏との関係性やどうしてザビエルが山口で布教することになったのか、どうして姉妹都市になったのかなど今更ながら知ることとなりました。



そして、楽しみにしていた『やまぐち公園』へ。交流会で父と共に山口の庭師達が得意分野を生かし協力して造り上げたこと、兄が設計し地元の木や石の調達に苦労したことなど詳しく知ることができました。地図に残る仕事をしてきたことを誇らしく思いました。兄や造園関係の方々と、造って 28 年たつ公園の現状を見て、どう剪定するか課題を見付けていく職人の視点は面白く、日本庭園としての景色の見せ方や感性を伝える交流は難しいけど大切なことだなと思いました。いつまでも『やまぐち公園』が日本を感じられる憩いの場であり続けてほしいです。



この旅では、生活時間や食文化の違い、スペインの古き良き文化を守り続けている中に現代アートも共存していることなど、海外旅行初心者の私にはいろいろなことを感じるよい機会でした。ガウディの才能をグエルさん達が認めたように、ザビエルが大内氏に受け入れられたように、パンプローナ市に日本庭園という日本文化を取り入れたように、人や考え方や文化を理解し合い、違う価値観を受け入れてきたことがいまに繋がっているのだなと思いました。

『ナバラの会』立ち上げ当初より父と共に活動されてきた父の心友伊藤さんをはじめ、同行の皆様と一緒にスペインの美味しい食事やワインをお腹いっぱい頂きながら話をしたことで、初対面なのにあっという間に親しくなれ草の根の交流を楽しむことができました。これからも、姉妹都市の交流活動に市民がいろいろな形で参加し、関心をもち続けることができるよう願っています。

ナバラの会の継続に尽力され交流活動を大切にされていること、このような旅の機会を計画して下さったことに感謝いたします。ありがとうございました。

.....

～市報にてスペイン旅行応募～

伊藤和江

\*慣れない機中泊のため足を痛めて車いすに乗ってバルセロナの公園めぐり。  
ころよく車いすを押して下さった方、とても感謝しています。  
はじめての車いす体験がスペインとは。



\*パンプローナの子供たちのおりがみ、  
きれいにおってるので秘訣を聞きました。参考になりました。  
\*食事と食事の間、短いのにコース料理。せっかくなつくって下さった料理人の方、  
又はたくさんすてられる食料。これは今度の旅行の残念な点。(個人の感想です)  
皆々様は本当にやさしい方々ばかりで感謝してます！

.....

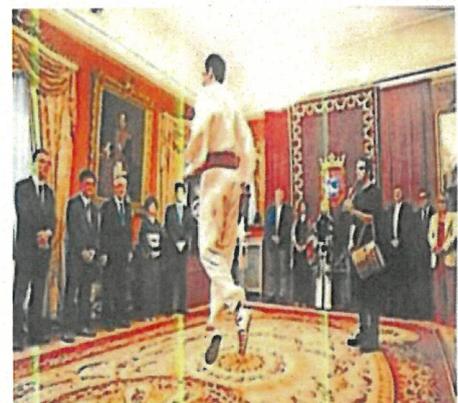
～忘れがたいパンプローナ市民交流～

片山妙子

姉妹都市締結45周年を記念して、スペイン・パンプローナを訪問する機会を頂き、心に残る貴重な交流を体験することができました。

まず市役所では温かく迎えていただき、現地の方々の踊りを拝見し、文化の豊かさと誇りを感じました。あの有名な牛追い祭りの通りを実際に歩いたときは、パンプローナの歴史と情熱を肌で感じ、感動しました。

CP SAN JUAN DE LA CADENA 小学校では、日本語で「こんにちは！」と元気に挨拶をしてくれた子どもたちに胸が熱くなりました。折り紙や習字を通して日本文化を



パンプローナ市庁舎

楽しんでくれている様子がとても嬉しかったです。もっとゆっくり子ども達とふれ合い、交流を深めたかったと感じました。

山口図書館の訪問も印象深く、瑠璃光寺や錦帯橋など山口県ゆかりのポスターが飾られているのを見て、とても驚き、誇らしい気持ちになりました。遠く離れた地で、故郷とつながっていることを実感できた瞬間でした。

旅の最後には「山口公園」に足を運びました。ここは山口市の造園業の方が手がけた、日本庭園的な雰囲気のある美しい公園で、その造園を担当された方と一緒に訪問するという、特別なひとときを過ごすことができました。

公園に立つ木々や、穏やかな空気の中に、日本とパンプローナの絆が静かに息づいているのを感じ、感慨深い時間となりました。

今回の訪問は、文化や言葉を超えて、人と人のつながりの大切さを再認識させてくれる、かけがえのない体験となりました。今後もこのような交流を大切に育てていきたいと思えます。



カデナ小学校 山口公園

～忘れがたいパンプローナ市民交流～

片山勝夫

姉妹都市締結 45 周年の市民訪問団としてパンプローナ市を訪れ、山口公園、山口図書館、サン・ファン・デ・ラ・カデナ小学校、パンプローナ市庁舎等を訪問させて頂きました。

パンプローナの過ごしやすい環境、歴史のある街並み、その中にある山口公園や山口図書館を見て、異国でありながら日本を感じる事が出来る空間に驚かされました。特に Parque de Yamaguchi の管理の行き届いた状態を実際に見て、市民の憩いの場を皆さんの力で保たれている事を実感しました。

また SAN JUAN DE LA CADENA では生徒や先生方に温かく迎えられ感動しました。生徒代表による日本語の紙芝居を見たり、全員と一緒に歌を歌ったり、教室では習字や折り紙に一生懸命に取り組む生徒さんを見て日本の文化や遊びを真剣に学ぶ姿も拝見しました。

この市民交流が今後も継続されサン・ファン・デ・ラ・カデナ小学校の生徒や公園を管理する職人さん、パンプローナ市民、多くの皆さんが山口市に来訪され、更なる両市の発展・繁栄に繋がる事が期待できるパンプローナ市訪問でした。

¡Gracias por todo, PAMPLONA! ¡Nos vemos!



山口公園



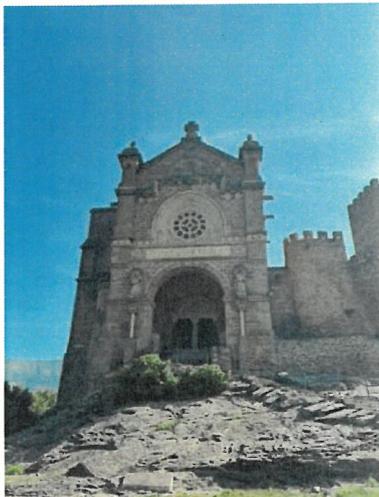
パンプローナ市庁舎 カデナ小学校

今回、市民訪問団の一員として初めて姉妹都市であるパンプローナ市を訪れる機会に恵まれました。

この訪問を通じて感心したことは、職業柄からか公園にしても街路樹にしても樹木がとても大きくのびのびと成長している点です。大きな樹木は美しく素晴らしい。日本では兎角すぐ苦情が出たり、その責任を自分ではない第三者に求めます。少し窮屈で、樹木としても生きづらい気がします。これはきっと国民性の表れでスペインではシエスタのような長いお昼休みの文化もあり、時間がゆっくり流れている感じがして人々に余裕があり、あまり細かいところまで気に留めないのだろうと勝手に思っております。少しうらやましい。

さて、バルセロナから始まり長い旅路の最後にたどり着いたパンプローナ。サビエル城を見学しました。昔の山口市のランドマークといってもよかった初代のサビエル記念聖堂。私の高校の卒業アルバムには消失前の記念聖堂の前で記念写真に納まる友人の姿があります。卒業後に焼失し、ちょうど大学の夏休みの帰省中に大きなニュースになり衝撃だったことを覚えています。この度サビエル城を訪れてお城の正面を見ることができ、当時の雰囲気が出され大変懐かしく感じました。

また、パンプローナ市には歴史的な資源や緑が多く、どこか山口市に似ている雰囲気があります。そして訪問した者しかわからないかもしれませんが、ヤマグチ公園やヤマグチ図書館など「ヤマグチ」とついた施設も多く、故郷である山口市が愛されているようでうれしくなりました。日本文化もずいぶん浸透しており、武術の演武や、書道など様々な展示品にふれる機会もあり、多くのおもてなしを受けるとともに皆さんのその気持ちに感動いたしました。これからは恩返しの意味でも山口市の中にも「パンプローナ」が少しずつでも増えるといいなと思います。



～15年振りのパンプローナ～

入江正敏

2010年、姉妹都市締結30周年の式典に参加するため市民訪問団の一員としてパンプローナを訪問して早15年。前回参加のメンバーで今回一緒したのは伊藤貞夫さんただひとり。そのとき60代前半だった私も今や後期高齢者の仲間入りをしている。15年という歳月は感慨深い。

振り返れば最初にパンプローナにやって来たのは35年前、カミノ・デ・サンチャゴ(サンチャゴ巡礼路)の取材だった。その当時は世界的に現在ほどのブームにはなっていなかったが、今や世界遺産だ。我々は雪のフランス国境のピレネーからスタートしてサンチャゴ・デ・コンポステーラまで800キロの道程を歩いて…嘘、車で各都市に寄り道をしながら1ヵ月かけて取材した。それがご縁でナバラ協会に入会した。パンプローナは巡礼者の重要な中継点である。パンプローナに来れば当時が懐かしく甦る。その後何故か数回パンプローナにはお邪魔している。

今回は13歳の孫の悠太を誘った。子供の体力が11日間もつのだろうか心配はしたが自分で買い物などをする経験とか、楽しんでくれたようだ。今後世界に目を向けてくれるひとつのきっかけになってくれれば爺は嬉しい。グループの皆さんからは悠太がいてくれて和んだと言ってもらってひと安心。額面通りに受け止めさせていただきます。悠太がお世話になりました。

パンプローナが州都としての格調を備えているのは落ち着きのある市街と山口公園の存在だろう。しかし公園の樹木の成長には驚いた。公園でひときわ目を引く存在だった滝流れを樹木が覆い隠していた。多々良さんたち造園メンバーが市の担当者を指導されたようだから5年後の確認が楽しみだ。但し、年齢による足腰劣化の影響もなく運良く行ければの話だが。



2010年の滝流れ



2025年の滝流れ  
(樹木の生長によりよく見えない！)

～スペインパンプローナの思い出～

入江悠太

日本から何千キロも離れたナバラの地にも太陽は巡り、バスクの伝統と文化の非常に大切な象徴となっているエグスキ・ロレ(バスク語)地元の山に自生する野生のアザミの近縁種(和名「チャボアザミ」)「悪い精霊、魔女、病気や嵐」などを防ぐお守りとして、そのドライフラワーを家々の入り口に掲げる風習があるそうです。

ナバラと山口の平和と繁栄への願いと姉妹関係のシンボルとして、太陽に勝るものはないとの思いが込められた手づくりの「太陽の花」のブローチをスペイン日本文化協会の皆さんとの交流会でもらいました。



エグスキ・ロレ(バスク語)  
「太陽の花」



みんなのブローチを手作り  
してくれたイルヤさん



手作りの「太陽の花」ブローチ



9歳の女の子イルネさんと  
訪問団の渡邊史信さん

広島に住んでいるので「鶴」は折れるけれど、他の折り方は知らなかったなので、女の子が折って、いるのを真似て、自分で確認しながら折り進んで行った。

自分が真似て折るのが分かったのかゆっくりと折ってくれた事が嬉しかった。

もっと一緒に遊びたかったけれど次の行事の為、小学校を後にした。



⇒カデナ小学校での折り紙交流

～職人としての交流～

波多野賢博 (有)岡部造園

スペインの土を踏んだとき、真っ先に風土の違いを感じた。湿気の無い空気にも、見慣れない植物。初めて訪れる異国の地で、いつにも無い高揚感を抱きながら、各地を巡りました。

それから数日の観光の後、ついに目的地、姉妹都市パンプローナ市に到着しました。それまでに感じていた高揚感とは別に、少し感じた田舎の親近感、さすが姉妹都市といった情景でした。

5月17日夕方、パンプローナ市に到着した足で「ヤマグチ公園」を下見がてらに散策。広い芝地に点々と佇む大きな樹木、芝生の上でサッカーをする子供、木陰で休む人々。まさに、地域の憩いの場としての姿を見たとき、いい公園だなと素直に思いました。その間を進んだ先に、大きな池と東屋、日本的な滝石組み。その日は作業方針をある程度決め、ホテルへと戻りました。

5月19日、1日の訪問旅行の後、作業当日を迎えました。事前の情報が少ない中、いったいどれだけの人数が来るのかと楽しみに思っていたが、なんと20人近くの参加。言葉の壁に少しの不安を感じながら、現地通訳ミゲルの力を借り作業が始まりました。お互いに緊張感のある空気の中、まずはプレゼントとして持ってきた鋏セットを贈呈。素直に喜ぶ姿に、一気に空気が緩み一安心しました。

さあ作業だ！と始まったものの、こちらの細かいニュアンスは伝わりにくく、初めは苦戦しました。しかし、現地の方のやる気とミゲルに助けられながら、作業はどんどん進み、気づけば自分たちが木に登り、それを手助けしてもらいながら、下からじっくりと観察されるという構図に。昔よく言われた、「技は見て盗め」とはまさにこのことだと感じました。正直、現地での作業は2時間程度と聞かされた時は、そんな時間で何が出来るのかと楽しみに思っていたが、現地の方々の熱意は、それを感じさせないものでした。この訪問を通じて受けた想いは、その熱意のお陰もあり、私の中に深く残りました。

姉妹都市である、ではなく、姉妹都市であろうとする。お互いに歩み寄って教え合う関係でありたいと、強く感じることができました。

また訪れる機会があれば、ぜひ参加させて頂きたい。本当に良い訪問でした。ありがとうございました。



～パンプローナ市の方との交流～

石田純子

パンプローナ市と山口市との姉妹都市締結 45 周年事業での市民訪問団としてパンプローナ市を訪れて、パンプローナ市民の方々との交流の日に、訪問団からは筆ペンと半紙を渡され、私たちにはスペインの手作りのお守りを 1 人ずつ頂きました。

宣教師フランシスコザビエルが来日してから長い年月を経てスペインナバラ州との国際交流が保たれているということは、山口市とパンプローナ市は深いご縁のある都市なのだと思えました。

皆さんとても温かい方でした。中には日本人と国際結婚されている方や、日本の文化にとっても親しみを持たれている方の集まりで皆さんの人柄にとっても感激しました。翌日訪れたカデナ小学校でも日本の文化に親しむ行事などがたくさん有るようで、国際交流の一環に参加できたことをとても嬉しく思いました。またチャンスがあればもっとゆっくりと訪れてみたい街です。

とても良い経験をさせてもらい感謝しています。



～パンプローナ市民との交流 パンプローナの小学生との交流～

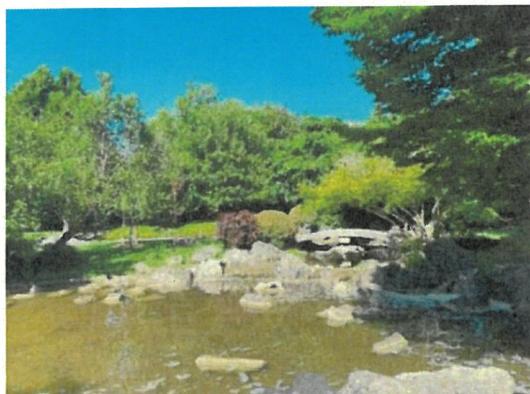
池田健夫

姉妹都市締結 45 周年の市民訪問団としてパンプローナ市を訪問し、パンプローナ市にあるカデナ小学校を訪問しました。これからの未来を担う現地の子供たちと直接交流を持てたことが一番記憶に残りました。子供たちが自ら作った『紙芝居』を披露してくれたことに感動しました。子供たちがお互いの国の文化を通じてますます関係を深めていくことを確信しました。普段経験できないことをしかも山口市代表として経験できた事は私にとっても素晴らしい経験となりました。この姉妹都市締結が 50 年、100 年と続き様々な交流が今後もされる事を祈っています。また記念行事等があれば両市の発展のために積極的に参加したいと思えます。



～パンプローナ市を訪問して～

蔵重静香



姉妹都市締結 45 周年の市民団体としてパンプローナ市を訪問し、様々な体験をすることができました。中でも「山口公園」の存在を知ったことは大きく、実際に足を運んでみて山口市からこんなにも離れた国に繋がりを感じられる場所があることに驚きました。

また山口公園の中をゆったりと散策してみると、友達とサッカーをしたり、家族と談笑しながら寝転がったりと、思い思いに過ごす人々の姿があり、山口公園がパンプローナ市の人々の日々の生活の中でとても身近に利用されていることを知りました。

今回の訪問では、造園士の方々が剪定作業と指導をされるということで、その作業前と作業後の山口公園も見ることができました。作業されている時の写真も確認すると、国籍の違うスペインと日本の造園士の方々が、通訳の方を通して笑顔でやりとりをされたり、剪定をされたりしていて、とても良い雰囲気伝わってきました。またこうした交流がこれからのパンプローナ市と山口市の良い繋がりを作っていくのだなと感じました。

今回市民団体の一員としてパンプローナ市を訪問し、現地の小学生と一緒に歌を歌ったり、習字や折り紙等の日本の文化に触れる子どもたちの姿を見せてもらったりしました。少しの時間でしたが、声をかけ、一緒に折り紙のツルを折ったことは印象的でした。また、子どもたちの中にも「あの時日本人が学校に来たな」「一緒に歌ったな」等と今回の交流の時間が記憶に残っていると嬉しく思います。

今回のパンプローナ市への訪問は、スペインという国に対して親近感が湧くきっかけとなりました。姉妹都市だと聞いても実際にどんな場所か、これまでどんな交流をしてきたのか、あまりイメージが湧かずにいましたが、現地へ行き自分の目で見たことでより一層具体的に理解することができました。これからもパンプローナ市と山口市の友好関係が続き、お互いの市を思いやった交流が保てると良いなと思います。

## ～20年ぶりのパンプローナ市訪問～

細坂はるみ

私が初めてパンプローナ市を訪れたのは、2006年5月17日からの8日間の旅でした。あれから実に20年が経ち、今回再びこの地を訪ねる機会を得たことに深い感慨を覚えます。前回の訪問のきっかけは、前年に山口スペイン・ナバラ協会(当時山口ナバラ協会)初代会長



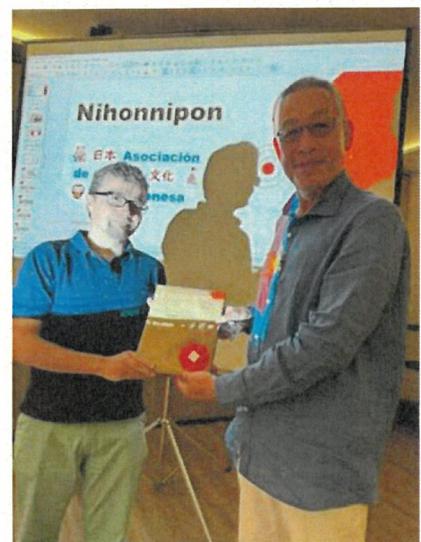
ナバラ日本文化協会の皆さんとの交流会

多々良孝一さんの依頼で、3人のスペイン人青年のホームステイ受け入れを依頼されたことでした。彼らとの出会いがきっかけとなり、「もう一度会えるかも知れない」「スペインという国をもっと身近に感じてみたい」という思いが募り、思いきって訪問団に参加する決意を固めたのです。そしてこの訪問を機に私は、山口スペイン・ナバラ協会(当時山口ナバラ協会)に入会し、今では事務局という大役を担うまでになっているのです。

さて、今回の訪問では、バルセロナ、サラゴサ、サンセバスチャン、ビルバオそしてパンプローナと、魅力あふれる各都市を巡ることができました。どの町も緑豊かな街路樹と歴史ある建造物が調和し、その壮麗な景観に心を奪われました。「こんな街に暮らしてみたい」と思わせるほどの美しさがそこにありました。なかでも、スペインの人々が自然を大切にし、利便性よりも歴史的建造物の保存を何気なく日常に取り入れている姿勢に、スペインという国とその国で暮らす人々の魅力を再認識させられ、深く感銘を受けました。

今回の市民訪問団の最大の目的である姉妹都市締結 45周年記念事業への公式参加、さらには日本文化協会の皆様やカデナ小学校の児童との交流も、無事に果たすことができ胸をなでおろしています。とりわけ、リハーサルなしで臨んだ両者との交流が、思いのほか大成功に終わったことは喜びもひとしおです。日本文化協会の皆様との「大内の殿様」の総踊り、カデナ小学校の児童とのジェスチャーを交えた大合唱は、言葉を超えて心がひとつになったと感じられる忘れがたい素敵な瞬間でした。

また、日本文化協会の方々との交流も非常に印象的でした。彼らは書道、刺し子、折り紙、盆栽などを通じて日本文化を学び、それを地域社会に紹介し続けておられます。わずか1時間ほどの短い交流時間の中では、自己紹介や作品紹介が



行われ、その芸術性の高さに思わず感嘆の声が上がるほどでした。日本文化を心から愛し日々鍛錬されている姿に、こちらが刺激を受け励まされる思いでした。

今回のパンプローナ市訪問は、山口スペイン・ナバラ協会にとっても、今後の活動の方向性を示唆する貴重な機会となりました。準備や手配には多くの時間と労力を要しましたが、それに見合う大きな成果を得ることができたと感じています。ご参加いただいた市民の皆様、またご協力いただいたすべての関係者の皆様に、心よりお礼申し上げます。

.....

～パンプローナ ヤマグチ公園～

伊藤尚吾



パンプローナ市ヤマグチ公園で  
公園管理技術指導を行う

造園組合の集まりがあると1997年ヤマグチ公園に日本庭園を作成された方々から当時の思い出を聞かせて頂いていました。楽しいことや大変だった事など聞いているうちに次の記念事業で行く事があれば行ってみたいと思うようになっていました。そして姉妹都市締結45周年の市民訪問団としてヤマグチ公園の公園管理者に技術指導が出来るという機会が訪れました。

ヤマグチ公園に足を踏み入れた時、パンプローナ市民の大勢の方々が楽しそうに公園を利用しておりとても愛されていると感じました。公園の芝生なども綺麗に管理されておりゴミ等も落ちていませんでしたが、先輩方が造った日本庭園はうっそうとした状態でした。技術指導が始まりどのように指導しようかと思っていた所、現地の公園管理者の方々から質問が止まらない状態でした。どうにかしたいと思われているのだなと嬉しくなりました。私が教えられる事は全て伝えたいと思います。日本の若い造園職の方々にこの熱意があればとも思っていました。私自身、市民訪問団の後発隊として遅れて合流したのですが自然に受け入れて下さった山口市民訪問団の方々に感謝をしています。ありがとうございました。

.....

～感動のパンプローナ!!!～

杉本理恵子

姉妹都市締結 45 周年おめでとうございます。記念すべき節目に、市民訪問団として参加させていただきましたことに心よりお礼を申し上げます。

パンプローナ市への訪問は今回が 3 回目となります。初訪問は 15 年前の 2010 年。「パンプローナ市にヤマグチと名付けられた場所が多いこと」を日本に伝える映像制作のためでした。2 回目は山口県立大学の学生さんと共に、姉妹都市パンプローナの食文化研究を学ぶために再訪。サンセバスチャンへも足を延ばしました。

今回の再訪で最も驚いたのは、この 15 年もの間にパンプローナでは益々、日本文化への探究が深化されたことです。サビエル城での展示及び日本語ガイドの充実、山口図書館での日本語書籍の増加、また市民教室での習字、生花、剣道の活動の質の高さには圧倒されました。

日本の文化がこれほどまでに親しまれている理由は、「市民交流」の情報交換会で知ることができました。15 年前、パンプローナでは有志が「日本文化協会」を立ち上げ、今日までボランティアで活動をしているそうです。そして、なんとそのリーダーが、15 年前に映像制作の際にホームステイさせていただいた家の息子エドだったのです。



15 年ぶりに再会したエド。日本人女性と結婚され、素敵なパパに！

一緒にできたこと、心よりお礼を申し上げます。また日本でも、そして 5 年後のパンプローナでも一緒にしましょう。グラシアス。

両国の縁結びの神様は、粹なことをなさいます。感動の再会から 15 年の時を埋めるように、互いの活動の「山あり谷あり」を話し涙しました。これまで、海を渡ってこんなにも感動したことはありません。そんな中、2 年前に山口に招聘したアマイア・ロメロの話題になり、アマイアがどれほどまでにパンプローナのみならずスペインで愛されている国民的歌手なのかを教えてくださいました。

思えば、「きずな」や「クリスマス市」の着想を得たのも、パンプローナでの取材や撮影における貴重な体験からです。クリスマス市の原点ここにあり。何よりもありがたいのは、これから未来に繋ぐミッションを、エドをはじめとするパンプローナの仲間たちと力を合わせて実現できるということ。新しい交流の扉が開いた、感動と感謝あふれる訪問となりました。

最後に、やはり何と言っても、旅の良さはお仲間の良さ。会ってすぐに下の名前呼び合うような心通う皆様とご

～パンプローナ市と交流の市民訪問団に参加して～

伊藤貞夫

このたび山口スペイン・ナバラ協会は、交流事業支援を目的に、ツアーの一般参加者募集で、22名が参加しました。参加者は、5月11日に福岡空港を出発し12日にスペインに到着し、17日まで北部の大西洋沿岸のサンセバスチャンまで、専用バスで移動して、各地の世界遺産やスペインの食文化を堪能しました。

近郊の世界遺産モンセラート(ギザギザ山)の中腹にあるベネディクト会の聖マリア修道院と黒いマリア像を参拝し、バルセロナでは、世界遺産のサグラダファミリア、グエル公園、ガウディ作のカサ・ミラ観光やパエリア・生ハム使用スペイン料理と、有名なワイナリーの銘酒を堪能しました。



黒いマリア像

サラゴサは、2つの大聖堂教会と世界遺産や芸術的建築物の街です。サンセバスチャンは、バスク地方都市でビーチと文化があり、王室の別荘やフランスに隣接する美食の街です。ビルバオは、有名なビスカヤ橋と街全体が屋外アートの美しい芸術的な街でした。

交流行事は、17日から19日にホテル、市の庁舎、山口公園で実施されました。

17日のホテル内の交流は、大内の殿様の踊りが盛況でした。45周年式典は市の庁舎で、山口公園での式典は途中から降雨で会場変更になり、式典後に山口図書館を訪問し書籍、カテナ小学校訪問で新しい紙芝居を贈呈し、午後からナバラ州を表敬訪問しました。

～架け橋としての庭園 山口市民訪問団パンプローナ訪問記～

ミゲル・アンサ・メリネロ / Miguel Anza Merinero

2025年5月17日から19日にかけて、山口市と市民の代表団がスペイン・パンプローナ市を公式訪問しました。本訪問は、両市が長年にわたり築いてきた姉妹都市関係を深めるものであり、今年でその友好関係は45周年を迎えました。市民交流、文化理解、都市間協力をさらに前進させる機会となりました。

私はパンプローナ出身で現在ローマ在住ですが、渡邊史信様のご厚意によって招待された立場として、この市民訪問団に参加いたしました。その中で、パンプローナ市内の「山口公園」において、日本から訪れた庭師の方々と現地のスペイン人庭師との交流の場面で、通訳としてお手伝いさせていただく機会がありました。これはあくまで私の個人的なささやか



特別謝辞:岡本秀一様および Angel 様(それぞれ日本側・スペイン側の庭園責任者)に心より感謝申し上げます。



鯉のぼりを設置後両国の庭師の方々  
(筆者は前列右端)

な協力にすぎませんが、両者の間の意思疎通が円滑になる一助となれたのであれば、大変光栄に思います。

この山口公園は、今から 28 年前に山口の造園家多々良健司氏によって設計されました。彼は特に「石」の配置に強いこだわりを持ち、日本庭園における象徴的な役割と精神性をパンプローナの地に表現しようと尽力されました。

今回の訪問は、両市をつなぐ深い歴史的背景を思い起こさせるものでした。パンプローナは 16 世紀に日本に渡り布教を行ったフランシスコ・サビエルの出身地であり、山口は彼が最初に日本で布教活動を行った場所のひとつです。このような縁が現代に受け継がれ、市民同士の交流という形で再び結びついていることに、私は深い感慨を覚えました。

山口公園での活動では、日本庭園と西洋式庭園に見られる美意識の違いが強く印象に残りました。日本庭園は、自然の姿をそのまま写し取ることを理想とし、静けさ、余白、そして四季の移ろいを重んじます。一方、西洋式庭園は幾何学的な構成と明瞭な対称性を特徴とし、秩序と華やかさを重視します。この違いは、自然との向き合い方や美の捉え方の違いを反映しており、文化を越えた相互理解の可能性を感じさせるものでした。

本訪問を通じて、パンプローナ市、そして特に「山口公園」が、今後さらに山口市との関係に目を向け、より深い交流と理解が育まれることを心より願っております。そして私自身も、パンプローナの中に日本的な美意識が息づく未来に向けて、その実現にささやかながら貢献していきたいと強く願っております。

山口市長伊藤和貴様をはじめ、代表団の皆様の温かいご配慮にも、この場を借りて感謝申し上げます。

(※報告記掲載順は提出順)

## 山口市民とパンプローナ市民の交流報告

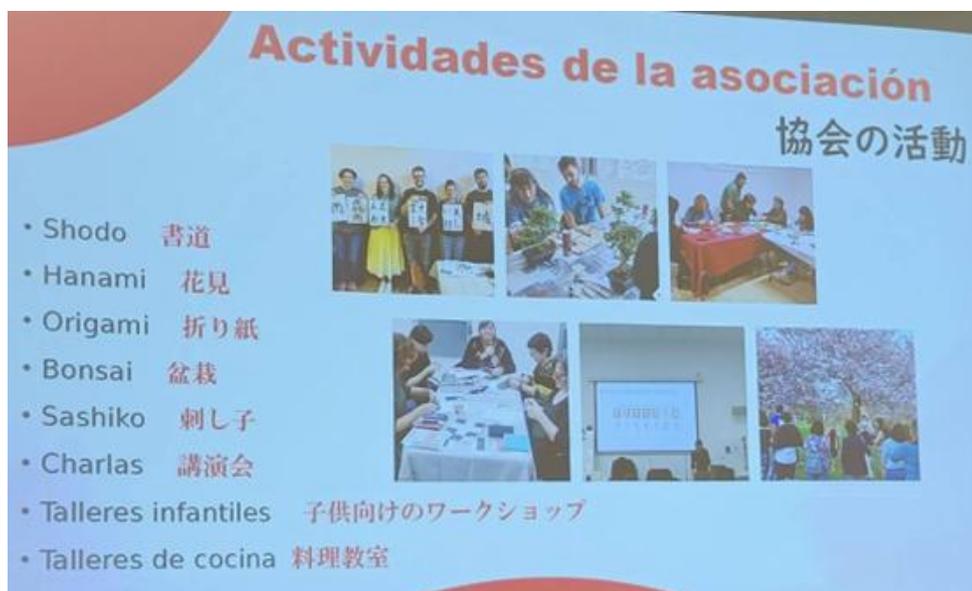
日時 5月17日 20時～21時

場所 NH Hotel Iruna Park

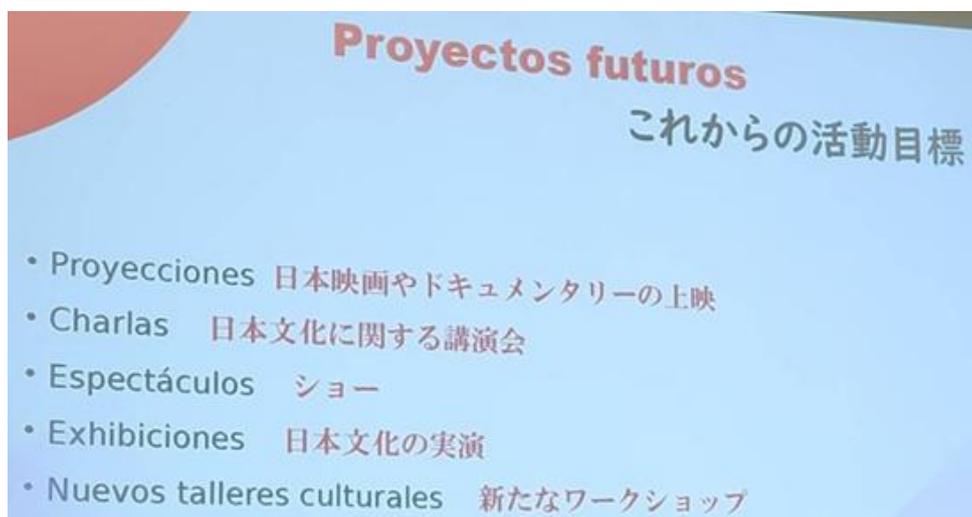
### 日本文化協会との交流

パンプローナ市内で日本文化を紹介する活動をされている Nihonniponpamplona(日本文化協会)との交流が行われた。

日本文化協会からはパンプローナ市内で行われている活動についてお話いただいた。山口市民からは山口市を紹介するものとして「大内の殿様」を一緒に踊った。短い時間だったが心のこもったおもてなしに感激した。



Nihonniponpamplona の現在の活動紹介



Nihonniponpamplona の今後の活動紹介



Nihonniponpamplona 活動紹介



スペイン語と日本語が飛び交う交流



短い時間だったが心のこもったおもてなしに感激・「大内の殿様」も踊った

## 山口市議会議長寄稿

～市民訪問団に寄せて～

山口市議会議長 入江幸江



この度、公式訪問団としてパンプローナ市を訪問する機会を頂きました。昭和55年(1980年)に山口市とパンプローナ市が姉妹都市盟約調印をした際、当時の議長であった私の父・中野正が調印に携わりました。そして45年の時を経て、娘である私が議長として同市を訪問することとなり、個人的にも非常に感慨深いものがありました。

私はこれまでも姉妹都市締結25周年及び30周年の際に、市民訪問団の一員としてパンプローナ市を訪れた経験があります。30周年の訪問時にはカデナ小学校にて市民訪問団を代表し、エプロンシアターを披露いたしました。その際の先生が今回も私の事を覚えてくださり、大変嬉しく思いました。

今回の訪問は非常にタイトなスケジュールではありましたが、皆様にはパンプローナ市役所での式典を始め、各記念事業にご参加いただきました。すべての行事が無事終了し、またヤマグチ公園がパンプローナ市民に深く愛されていることを実感できたことは、私にとって忘れがたい思い出となりました。

今後も両市の交流が未永く続いていくためには、市民訪問団のご参加が大きな支えとなります。この度のご参加、誠にありがとうございました。



カデナ小学校で記念品紹介



カデナ小学校へ紙芝居を導入された先生と



パンプローナ市民との交流

## 山口市・パンプローナ市姉妹都市締結 45 周年記念事業実行委員会

山口市・パンプローナ市姉妹都市締結 45 周年を記念して、パンプローナ市に市民訪問団を派遣し、両市の一層の友好促進を図るため、山口市・パンプローナ市姉妹都市締結 45 周年記念事業実行委員会を 2025 年(令和 7 年)2 月 25 日に設置した。

### 1)委員名簿

委員長	多々良健司	山口スペイン・ナバラ協会会長
副委員長	岡本秀一	山口市造園協会会長
	入江幸江	山口スペイン・ナバラ協会副会長
	渡邊史信	山口スペイン・ナバラ協会理事
	細坂はるみ	山口スペイン・ナバラ協会事務局長
	波多野賢博	山口市造園協会副会長
	中川孝	山口商工会議所専務理事
オブザーバー	山口市交流創造部国際交流課	

### 2)事務局

山口スペイン・ナバラ協会

### 3)事業内容

- ・市民訪問団の派遣に要すること
- 事前研修会の実施
- 記念行事、及び各訪問先での交流事業への参加
- ヤマグチ公園管理者との意見交換会への参加
- 訪問記作成

### 4)事前説明会

日時 2025 年 4 月 3 日(木) 18 時

場所 山口市役所 A 会議室

概要 市民訪問団長挨拶、及び市民訪問団参加者へパンプローナ市との姉妹都市交流の状況、旅行行程、旅の心得等を説明

### 5)結団式

日時 2025 年 5 月 7 日(水) 16 時

場所 山口市役所 603 会議室

概要 市長挨拶、団長挨拶の他、結団式終了後にスペイン出身の山口市国際交流員ハマ・ガルベス・ルイス氏によるスペイン文化紹介講座を実施

山口市民訪問団員名簿

1	多々良 健司	市民訪問団団長／実行委員長
2	岡本 秀一	市民訪問団副団長／副委員長／山口市造園協会会長
3	伊藤 貞夫	
4	波多野 賢博	実行委員／山口市造園協会副会長
5	細坂 はるみ	実行委員
6	有富 敦子	
7	匿名希望	
8	伊藤 和江	
9	濱田 節子	
10	石田 純子	
11	池田 健夫	
12	入江 悠太	
13	入江 正敏	
14	蔵重 静香	
15	山上 祐子	
16	片山 勝夫	
17	片山 妙子	
18	渡邊 史信	実行委員
19	渡邊 優子	
20	伊藤 尚吾	山口市造園協会
21	杉本 理恵子	
22	浦前 忠彦	

(現地参加)

通訳 マリア・ルビオ・カロ(元山口市国際交流員、マドリード在住)

通訳 ミゲル・アンサ・メリネロ(パンプローナ市出身・ローマ在住)

## 山口市民訪問団行程

### ■旅行日程

2025年(令和7年)5月11日(日)出発 ~ 21日(水)帰国

### ■旅行行程

- 5月11日(日) 福岡空港に集合後、空路、香港へ移動
- 12日(月) 香港を経由して、スペインのバルセロナへ到着、バルセロナ観光
- 13日(火) バルセロナ郊外ペネデス地区のワイナリー見学、サグラダファミリア観光
- 14日(水) サラゴサへ移動、サラゴサ観光
- 15日(木) サンセバスチャンへ移動、サンセバスチャン観光
- 16日(金) リオハ地区のワイナリー見学、ビルバオへ移動
- 17日(土) ビルバオ観光、パンプローナ市へ移動  
Nihonniponpamplona と交流
- 18日(日) ハビエル城、オリテ城、ボデガス・オチュア・ワイナリーの視察
- 19日(月) パンプローナ市庁舎での姉妹都市締結45周年記念式典参加、  
サン・ファン・デ・ラ・カデナ小学校訪問、ヤマグチ図書館訪問、  
ヤマグチ公園での姉妹都市締結45周年記念式典参加、  
パンプローナ市長出席昼食会参加、ナバラ州政府訪問、  
山口市からの造園技師は、パンプローナ市内公園管理者と意見交換実施
- 20日(火) パンプローナ空港からマドリッドを経由して、香港へ移動
- 21日(水) 香港を経由して福岡空港へ到着後、解散

日本と香港の時差 -3時間

日本とスペインの時差 -7時間

利用航空会社:キャセイパシフィック航空、イベリア航空

### ■参加人数

22名

### ■随員

通訳: 17~20日 マリア・ルビオ・カロ (マドリッド在住)

通訳: 17~20日 ミゲル・アンサ・メリネロ(パンプローナ市出身・ローマ在住)

現地添乗員(ツアーガイド兼通訳) 12日から13日1名、14日から20日1名

## ■旅行会社

旅行会社 2 社からパンプローナ市での記念事業を除いた行程の提案を受けた上で 1 社に決定した。

■参加者の募集記事は、山口スペイン・ナバラ協会ウェブサイト、サンデー山口、市報やまぐち等に掲載した。

(主な掲載内容)

### 【姉妹都市パンプローナ市への市民訪問団募集】

スペイン・パンプローナ市との姉妹都市締結 45 周年を記念し、同市を訪問する市民訪問団への参加者を募集します。締結記念事業等で相互交流を深めます。

期 間： 5 月 11 日(日)～21 日(水)

対 象： 4 月 3 日(木)開催の事前説明会に参加できる方先着 30 人

参 加 費： 80 万円から

(福岡空港往復移動費、パスポート取得費、旅行傷害保険料等を除く)

申 込： 3 月 22 日(土)までに山口スペイン・ナバラ協会ウェブサイト

(下の二次元コード参照。旅行行程等詳細あり)からお申し込みください。

問い合わせ： 山口スペイン・ナバラ協会事務局



## ■パンプローナ市訪問行程表

月日	曜日	時間	概要	場所
5月17日	土	15:30	パンプローナ市へ到着	
		20:00	Nihonniponpamplona(日本文化協会)との交流 参加者自己紹介、日本文化協会代表挨拶、山口市民代表挨拶、日本文化協会活動紹介、意見交換、大内の殿様をみんなで踊る、記念品贈呈、集合写真	イルニャ・パーク
		21:30	夕食	カフェ・イルニャ
			宿泊	イルニャ・パーク
5月18日	日	10:15	ハビエル城視察	ハビエル城
		14:00	昼食	カサ・サニート
		16:00	オリテ城視察	オリテ城
		18:00	ボデガス・オチュア・ワイナリー視察	オリテ
		20:30	夕食	サンチョ・ラミレス
			宿泊	イルニャ・パーク
5月19日	月	10:00	記念式典 パンプローナ市長挨拶、山口市長挨拶、記念品交換、バスク地方伝統舞踊「アウレスク」披露、ギターデュオ演奏	パンプローナ市庁舎
		(10:00)	山口市造園技師とパンプローナ市公園管理者との意見交換会	ヤマグチ公園
		10:40	サン・ファン・デ・ラ・カデナ小学校訪問 紙芝居を学校教育に取り入れた先生の挨拶、山口市長挨拶、市民訪問団団長挨拶、校長挨拶、日本語とスペイン語での紙芝居披露、「幸せなら手をたたこう」合唱、書道・折り紙ワークショップ見学、集合写真	サン・ファン・デ・ラ・カデナ小学校
		12:00	ヤマグチ図書館訪問 公式訪問団挨拶、市民訪問団団長挨拶、ヤマグチ図書館担当者挨拶、記念品交換、図書館視察(写真俳句、書道作品展示あり)	ヤマグチ図書館
		13:00	記念式典 パンプローナ市公園責任者挨拶、山口市議会議長挨拶、植樹、剣道・居合道デモンストラーション	ヤマグチ公園
		14:15	パンプローナ市長出席昼食会	イルニャ・サラ
		17:00	ナバラ州政府訪問 第2副首相挨拶、山口市長挨拶、記念品交換、集合写真、州庁舎見学	ナバラ州庁舎
		20:00	夕食(自由参加)	ラ・ビエハ・イルニャ
			宿泊	イルニャ・パーク
		5月20日	火	4:45
6:45	パンプローナ市出発			パンプローナ空港

※パンプローナ市内移動については、旅行会社手配専用車両

## 山口市の姉妹都市スペイン・パンプローナ市紹介



パンプローナ市は、スペイン北東部・フランスとの国境沿いにあるナバラ州の州都であり、政治・経済・文化の栄えた土地です。また、中世に栄えたナバラ王国の首都であったことから古い建物が残る歴史ある街です。

毎年7月6日から14日まで行われるサン・フェルミン祭は「牛追い祭」として世界的に有名で、ヘミングウェイの「日はまた昇る」にその様子は克明に記されています。

近郊には日本に初めてキリスト教を伝え、山口市に滞在した聖フランシスコ・サビエルの生まれたハビエル城があることが契機となって、1980年(昭和55年)2月19日に山口市と姉妹都市提携を締結しました。



パンプローナ市長  
ヨセバ・アシロン氏

2015年から2019年  
までの就任に続いて、  
2023年12月に再任。

パンプローナ市  
人口：約21万人  
面積：25.24km<sup>2</sup>  
公用語：スペイン語  
バスク語



### 【ヤマグチ公園】

1997年(平成9年)春、締結15周年を記念して、山口市の造園技師の指導によって日本庭園を施した「ヤマグチ公園」が完成し、市民の憩いの場として親しまれています。

そのほか、パンプローナ市内には「ヤマグチ図書館」「ヤマグチ映画館」などの「ヤマグチ」の名を冠した施設があり市民に親しまれています。

### 【ヤマグチ図書館】

ヤマグチ公園に隣接し、スペイン国内において有数の日本語資料の蔵書を誇ります。

これまで山口市民から多くの日本語資料や日本文化を紹介する資料、紙芝居等が寄贈されています。



## 山口市民とパンプローナ市民の交流

【山口大学教育学部附属山口小学校とサン・ファン・デ・ラ・カデナ小学校の交流について】

山口市とパンプローナ市の姉妹都市提携が契機となって、山口大学附属山口小学校とパンプローナ市にあるサン・ファン・デ・ラ・カデナ小学校において2023年3月に「英語を通じた学術連携パートナーシップ協定」が結ばれました。

英語のメッセージを添えたクリスマスカードの交換をはじめ、今では英語で学校生活やお互いの街を紹介するビデオ交流が行われています。



【スペインの歌姫 アマイア】



アマイア・ロメロ パンプローナ市出身の26歳

2018年にスペイン国営放送の人気オーディション番組で優勝し、翌年に発表したデビューアルバムがスペイン国内のベストセラーアルバム第1位を獲得し、国民的歌手となりました。

2023年1月3日、アマイアは自身の誕生日に「山口」を発表しました。この曲は2022年の誕生日に発表した「Yamaguchi」の日本語版です。歌詞の中にはパンプローナ市にあるヤマグチ公園での思い出と山口市民へ寄せた思いが歌われています。

2023年12月に山口市で初来日コンサートが開催され「山口」が披露されました。

現在も確実にキャリアを築いており、ファッション雑誌「Vogue Espana(2025年1月号)」で表紙を飾りました。



1993年(平成5年)一の坂川にかかるえびす橋改修に合わせて、スペース・パンプローナが整備されました。パンプローナ市をイメージした東屋や牛追い祭りを紹介するからくり時計が設置されており、2022年アマイアが「山口」を発表したことを記念して、アマイアのメッセージが聞ける看板を設置しました。

2023年の来日時にはアマイアが実際にこの広場を訪れています。



2025年2月15日、16日山口市・パンプローナ市姉妹都市締結45周年を記念してKDDI維新ホール「感謝デー」との共催として記念行事が開催されました。

パンプローナ市との交流を紹介するものとして、ヤマグチ図書館、パンプローナ市内にある日本語教室、日本文化協会、俳句協会に御協力いただき、作品展示を行いました。



山口市国際交流課Instagram「Yamaguchi\_city\_international」では、国際交流課が行う事業やイベントを紹介しています。フォローをお待ちしています！



## 山口市・パンプローナ市姉妹都市締結 45 周年記念式典市長挨拶

### ヨセバ・アシロン・サエス パンプローナ市長挨拶

おはようございます。

パンプローナ／イルニャ市役所、またその市議会の名のもとに、市長様と他、公的機関の代表者の方々を筆頭とする姉妹都市山口市の公式訪問団の皆様を、礼と心をつくしてお迎えすることができるのを私は心より光栄に思っております。



今回私たちが集う結果となった御訪問は、たんなる外交的行事であるにとどまらず、なによりも 1980 年 2 月 19 日に姉妹協定に署名した時より 2 つの市を結ぶ連綿と続く深く誠実な友情のセレモニーです。

45 年の長きに渡って、私たちは相互的な尊敬、文化的憧憬、両市の中の架け橋となることの願いを分かち合うことをもとに、関係を紡いできました。

山口市の造園家の方々が設計してくださった日本庭園、ヤマグチ公園を考えるだけで十分でしょう。ヤマグチ公園は、すでにパンプローナ市民に愛されるシンボルとなっています。今も山口の造園家の皆様は、この特別な場所の保全のために市の造園担当者達に、ご協力くださっています。

それだけでなく、この姉妹関係を推進する多くの展覧会、学術交流、教育プログラム、公式訪問なども付け加えることができます。図書館の間のコラボレーション、大学間の関係、公立語学学校における日本語学習、日本の芸術品などはパンプローナの市民の心を豊かにし、尊敬と感受性をもって 2 つの文化の間の距離を縮めています。

しかしながら、具体的な行事の更に向こうに、姉妹関係の精神の中に留めておきたいものがあります。こういった絆というものは、戦争の痛みの後の再建時に、国々の間に平和と協業と相互理解を進行させようという人間的な深い目的をもって、生じました。今日、世界が再び様々な複雑な対立に戻るとき、この使命は今まで以上に必要なものとなり続けます。

だからこそ、この姉妹関係は過去だけにかかずらうものであってはなりません。共に発展し、相互に学び合い、もっと正義と慈愛にあふれた世界の構築を目指す、現在と未来の間の約束でもあるのです。



山口市長様、訪問団メンバーの皆様、皆様が私たちが常に心にかけておられること、その友情、私たちに会うために世界を半周してくださることに対して、感謝いたします。なぜなら、私たちが誠実であるかぎり、常に皆様はこちらに来てくださるのですから！ということで、そろそろ私たちが山口へ行く番が回ってくるようです。いつも皆様がしてくださる優雅さと礼儀と親切さを、私たちもお示しできますよう願っております。ありがとうございます。

皆様の第 2 の故郷であるパンプローナにようこそ。

## 伊藤和貴 山口市長挨拶

アルカルデ、アウトリダデス、セニョーラス、セニョーレス、ブエノス・ディアス、エグウン・オン  
(市長様、行政の皆様、皆さん、こんにちは。)

山口市とパンプローナ市の姉妹都市締結 45 周年を記念いたしまして、一言御挨拶を申し上げます。

ヨセバ・アシロン・サエス市長様をはじめとするパンプローナ市の皆様、この度は両市の姉妹都市締結 45 周年を記念して、私たち山口市からの訪問団を快く受け入れていただき、誠にありがとうございます。訪問団一同を代表して心から感謝を申し上げます。

45 年前の 1980 年、我々の先人達は、両市の友好と理解を深め、親善を図るとともに、世界平和に貢献することを願い、両市の交流が始まりました。

以来、ヤマグチ公園の整備をはじめ、小学生同士の絵葉書交流やビデオ交流など、45 年もの長きに渡り、数々の交流を積み重ねて参りました。

とりわけ 5 年前の 40 周年の折には、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、訪問による交流が困難となりましたが、市民を交えてのオンライン記念式を開催するなど、両市の交流が途絶えることはありませんでした。

そして、こうした交流の積み重ねが、両市民の間にぬくもりや親近感を育み、こうして今を迎えていると思っております。

本年 2 月には、本市において、ひと足お先に姉妹都市締結 45 周年の記念イベントを開催いたしました。アシロン市長様の祝賀メッセージをはじめ、多くのパンプローナ市の皆様からのビデオメッセージや、書道作品、写真俳句などを送っていただき、本当にありがとうございました。多くの山口市民が、パンプローナ市において日本文化が身近なものとして楽しまれていることなどに、大変喜んでいたところであります。

そして、この度は、私も、市民の代表として、こうして皆様にお会いできたことを心から嬉しく思っております。

ヨセバ・アシロン・サエス市長様をはじめ貴市の皆様方には、パンプローナ市で共に姉妹都市締結 45 周年を祝うため、今回こうして我々を受入れていただきましたことに改めて感謝を申し上げます。

最後になりますが、この度の訪問が、両市の友情の絆と両市・両国の理解を更に深め、未来へつながっていくことを大いに期待しております。そして、アシロン市長様をはじめとするパンプローナ市の皆様の山口への訪問を心からお待ちしております。

ムチャス グラシアス、エスケリ・カスコ  
(ありがとうございます)



## 山口市・パンプローナ市姉妹都市締結 45 周年記念ナバラ州政府表敬訪問挨拶

アナ・オジョ・ウアルデ ナバラ州第 2 副首相挨拶

伊藤和貴山口市長様、入江幸江山口市議会議長様、そして、ご来賓の皆様、こんにちは。

ナバラ州政府副首相として、山口市役所とその代表でいらっしゃる皆様に、昨年私共訪問団が山口市を訪問した際にいただいたおもてなしへの感謝から、私のあいさつを始めさせていただきたいと思います。実際、山口市役所が、パンプローナ／イルニャ市役所と共に、1980 年に始めたものが、この長きに渡る実り豊かな友情の絆でした。



その後、両市の絆に、山口県庁とナバラ州政府も加わって、2003 年には、協力関係として姉妹協定が署名されました。すなわち、交換留学、文化・スポーツ・教育交流、食の連携、友情と良き行政体などの分野での協力です。

私たちの姉妹関係は、現在非常にアクティブで、将来もこのように生産的なものであって欲しいものですが、教育・文化、また、観光を含めた産業分野での協力体制を強めていっています。昨年ニューヨークタイムズで世界の訪問すべき 52 の場所の一つに選ばれたのは、決して故なきことではありません。

この関係から、90 年代には全パンプローナ市民によく知られるヤマグチ公園が生まれました。日々数百名を数える人々が散策する、8 万平方キロメートルを超える素晴らしい植物相を備えたこの公園は、1997 年に 2 人の日本の造園技師の方によって計画され、市へのプレゼントの形で設計されました。その公園の傍らには日本分野を専門として、山口市と山口県との様々なつながりをもつヤマグチ図書館があります。

また、サン・ファン・デ・ラ・カデナ市立小学校の子供たちもこの図書館をよく知っています。サン・ファン・デ・ラ・カデナ小学校は、私共が去年の 3 月に最後に日本を訪問した際訪問する機会を得た山口の附属小学校と協定を結んでいます。附属小学校では、最も若い世代の間での文化や価値観の相互理解を深める交流を行っているのを、自分自身の目で見て、知ることができました。

最近では、ヤマグチ公園は、当地出身の最も国際的なアーティストである、アマイア・ロメロさんのインスピレーションの源ともなりました。くしくも、「ヤマグチ」と題された歌では、幼い日のヤマグチ公園での散歩を思い起こします。

パンプローナ市内に「ヤマグチ公園」がある一方で、山口市の中心部にパンプローナを紹介する場所ともされているエビス橋横の広場の中にその名「スペース・パンプローナ」があることも知っています。

こういった今に至るまでの語り切れないほどの多くの活動や事柄によって、たとえ地理的に何千キロも隔てられていても、文化と伝統を交える様々な分野で相互に貢献し合おうとい

う願いへと、私たちを結び付けていっているのです。

申しあげました通り、当地の聖人フランシスコ・サビエルが16世紀に日本に到着したことを機として結ばれた私たち2つの土地の関係を公式にまとめることとなった姉妹協定の署名から、私たちの関係は20年以上の年月を経ました。かの修道士フランシスコ・サビエルは、この姉妹関係の起爆剤でありました。また、彼はアジアでの修道士としての宗教活動だけに限らず多文化・多言語話者としての行いでも知られています。

私たちを結び付けたこの歴史的人物から現在にも生きる多くの価値観を学ぶ必要があるのではないのでしょうか。例えば、記憶するということ、関係、異なる地方・市の間での協業、または私たちの文化や言語を推進するといったことです。くしくも私がトップを務める省の名前そのままとも言えますが。

ナバラ州副首相としてだけではなく、記憶・共生、外務、バスク語省のトップとして皆様をお迎えしたいと思っております。共生、国際関係、そして言語という三つの要素は私たちの関係において、また、一部では聖フランシスコ・サビエルという人物像の中にも、存在しています。私たちは、将来平和の中で共存共生していくために、過去から学んでいきたいと思っております。異なる広がる世界に向かって、意識と国境を開きましょう。そして、その上で私たち自身の文化と言語を守っていきましょう。

だからこそ、私たち二つの社会を豊かにし、また、将来においてもそうであって欲しいものですが、今ご覧の通りとても強い私たちの姉妹関係を続けていきたいと思っております。

最期に、州政府・市役所などの公的機関からの出席者の皆様、日本から足を運んでいただいた代表団の皆様、ナバラ州訪問にご尽力いただいたすべての皆様に感謝とご挨拶を差し上げたいと思います。

ありがとうございます。



## 伊藤和貴 山口市長挨拶

ビセ・プレジデンタ、アウトリダデス、セニョーラス、セニョーレス、ブエノス・タルデス  
(第 2 副首相様、行政の皆様、婦人の皆様、紳士の皆様、こんにちは。)

山口市からの訪問団を代表して一言御挨拶を申し上げます。

アナ・オジョ・ウアルデ第二副首相様をはじめとするナバラ州政府の皆様、本日は、私たち山口市からの訪問団を温かく受け入れてくださりましてありがとうございます。

本年は山口市とパンプローナ市の姉妹都市提携を締結してから 45 周年を迎える記念の年であり、この訪問の滞在中、私たちは、パンプローナ市をはじめ、ハビエル城やナバラ王国縁の地を訪問する機会を得まして、ナバラ州、そして州都であるパンプローナ市への歴史的な理解を深めてまいりました。

私は、アナ・オジョ・ウアルデ第 2 副首相様をはじめとしたナバラ州訪問団の皆様が、昨年、山口県との姉妹提携締結 20 周年を機に山口市に来られた際に、御挨拶の機会をいただきお礼申し上げ、この度、パンプローナ市で再びお会いすることができましたことを大変嬉しく思っております。

さて、本年 2 月に、この度のパンプローナ市訪問に先立ち、山口市においてパンプローナ市との姉妹都市締結 45 周年の記念イベントを開催いたしました。

イベントには、パンプローナ市の皆様からの日本語でのビデオメッセージや書道作品、写真俳句などを御提供いただきまして、ここパンプローナの地で日本の文化が皆様の身近なものとして楽しまれていることを広く山口市民に紹介をいたしました。

また、パンプローナ市においても、本年 3 月に、ナバラ州のテレビ局において特別番組を編成され、山口県立大学の学生により、本市の観光 PR 動画が放送されたと伺っています。

姉妹提携であるナバラ州と山口県、姉妹都市であるパンプローナ市と山口市が、様々な交流の積み重ねにより、今後もお互いの理解と友好を深めていくことを願っております。

終わりになりますが、ナバラ州のますますの御発展とマリア・ビクトリア・チビテ・ナバスクエス首相様をはじめとするナバラ州政府の皆様の御活躍を心から祈念をいたしまして挨拶いたします。

ムチャス グラシアス  
(ありがとうございました)



●パンプローナ市役所公式ホームページ～45 周年記念訪問団に関する記事～

<https://www.pamplona.es/actualidad/noticias/pamplona-acoge-una-delegacion-de-yamaguchi-para-celebrar-el-45o-aniversario-del>

●パンプローナ市役所公式ホームページ

<https://www.pamplona.es/en>

●パンプローナ市公式インスタグラム

[https://www.instagram.com/pamplona\\_ayto/](https://www.instagram.com/pamplona_ayto/)

●サン・ファン・デ・ラ・カデナ小学校 CP San Juan de la CADENA 小学校

～学校訪問に関する記事～

<https://cpsanjuandelacadena.educacion.navarra.es/web/blog/2025/05/19/visita-delegacion-de-yamaguchi/>

●サン・ファン・デ・ラ・カデナ小学校公式ホームページ

<https://cpsanjuandelacadena.educacion.navarra.es/web/>

●ヤマグチ図書館公式ホームページ

<https://www.bibliotecaspublicas.es/pamplona-yamaguchi>

●ヤマグチ図書館インスタグラム

<https://www.instagram.com/bibliotecayamaguchipamplona/?hl=es>

●ナバラ州政府公式ホームページ

<https://www.navarra.es/es/inicio>

●ナバラ州インスタグラム

[https://www.instagram.com/gobierno\\_navarra/](https://www.instagram.com/gobierno_navarra/)

●Noticias de Navarra～45 周年記念公式訪問団に関する記事～

<https://www.noticiasdenavarra.com/pamplona/2025/05/16/delegacion-yamaguchi-visita-pamplona-45o-9641825.html>

●Nihonniponpamplona(日本文化協会)インスタグラム

<https://www.instagram.com/nihonniponpamplona/>



パンプローナ市ヤマグチ公園

2025年(令和7年)8月

編集／発行 山口市・パンプローナ市姉妹都市締結45周年記念事業実行委員会